



学校通信 ～野はひろく～

青梅市立霞台中学校

令和8年4月号



共に歩む霞台中学校へ！

校長 富田 聖和

皆様、初めまして。この度、4月1日より本校、青梅市立霞台中学校に着任しました校長の富田 聖和（きよかず）と申します。創立以来52年の歴史と伝統のある霞台中学校に勤めることができて、たいへん光栄に感じております。この52年の歩みの中で、数々の生徒や保護者、地域の方々、関係機関の皆様、そして教師たちが共に歩んで創り上げてきた霞台中学校の伝統・文化を伝承しながらも、さらに輝かしいものへと発展させて歩んでいきたいと思っております。

私自身、教師のスタートを青梅市の吹上中学校から始め、多摩市、三宅村、御蔵島村、瑞穂町、神津島村と様々な地域を巡り、特色ある学校に勤めてまいりました。そして、青梅に戻ってきてからは、西中学校、東中学校と勤め、青梅市にもそれぞれの地域で特色があり、地域があってこそその学校だと強く感じております。このような特色ある学校を経験してきたことを踏まえて、霞台中学校では次の3つのことを大切な柱として学校教育を歩んでいきたいと考えております。

1 人権教育の推進

霞台中学校の教育目標の第一に「自分も人も大切にしよう」とあります。子供が、自分と同じように他の人も大切にするためには、思いやりの心や優しさ、相手と協力していく姿勢、困っている人を支えていく気持ちがなくてはできません。自分も人も大切にする生徒を育てていきます。

2 自己有用感の育成

子供は時として、自分に自信を無くしたり、弱気になってあきらめてしまったり、やればできるのにその一歩が踏みだせなくて挑戦できないでいる時があります。そのような時子供は、どうせ自分なんかは、将来、役に立たない大人にしかたれないと思っています。その思いになるのは、自分に自信がないからなのです。生徒一人一人に、毎日の授業や学校行事、部活動等で目標をもたせ、その実現のために努力をさせて、達成できた時には大いに褒め、やればできるという自信をもたせます。そして、将来、大人になってからも、人のために役に立つ人間になろうと、自分は価値ある存在なのだという気持ちを育てていきます。

3 挨拶の励行

今の子供たちは、日常生活の中でパソコンやタブレット、携帯電話などIT技術の優れた時代に生きています。また、これからの未来社会では、AIの技術がますます発展し、情報機器との対話が中心となっていく時代がやってきます。そのような未来社会では人と人とのコミュニケーションをとり人間関係を上手にとっていく力が求められます。その第一歩として、挨拶のできる子供を育みます。挨拶は、人がコミュニケーションをとっていく中で大切な習慣であります。挨拶は心と心が通じ合い人間関係を上手に構築していくことにつながります。いつでも、どこでも、だれとでも、何度でも挨拶を交わすことができる生徒にしていきます。



以上のように、3つの柱を実現していくためには、保護者、地域、関係者の皆様のご理解とご支援、ご協力があってこそ、より充実した取組になっていきます。これまでと同様に皆様と共に霞台中学校の伝統・文化を創り上げていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。